

2024 年度 学校法人 三幸学園 東京みらい AI&IT 専門学校 自己評価ならびに学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 飯島英和

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 高橋和紀

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、AI・IT 分野の学校として「AI・IT を通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げ、「AI・IT を通じて人に感謝され、持続可能な社会に貢献できる人材を育成する」といった人材育成方針を掲げている。また、「社会で活躍するために、専門分野における新しい知識や技術の習得に努力を惜しまない人」「素直な気持ち、感謝する気持ち、思いやりのある人」「自ら未来を切り開いていこうとする情熱と夢を持ち続け、仲間と協力して目標を達成しようと努力する人」をアドミッションポリシーとして掲げ、その実現に向けて生徒指導を展開している。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

◇教務

- ・退学率 10%以下が目標。特に 1 年生の退学者を減少させたい。
⇒結果 1 年生 10.14%、2 年生 2.33%、全体で 7.23%であった。

◇就職

- ・1 年生⇒夏休みからの短期インターンシップへの参加者を増やす。就職活動早期促しと意識付けの強化。
- ・2 年生⇒7 月末で 50%の就職内定率、12 月末で 92%、卒業時まで 100%の内定率が目標。
(2024 年度卒業時の内定率は、88.6%の結果であった。)

◇広報

- ・入学者増員を目指す。
2021 年度 65 名⇒2022 年度 95 名、2023 年度 100 名、2024 年度 148 名で、2025 年度は 203 名であった。
2026 年度入学者目標は、250 名(うちステージアップ入学者が 50 名程度想定)。

② 学校関係者評価委員会コメント

- ・特になし

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

なし

② 今後の改善方策

◇入学当初のみの意識付けだけに留まらず、継続的に授業やHRなどでも教育理念を常に伝え、浸透化を図っていく。

③ 特記事項

◇学園内の姉妹校と比較しても、入学者の属性(高校種別、生活状況)などについて特徴があり、入学時に通学・学校生活に不安を持つ学生が多い。毎年入学前や直後の保護者説明会にて質疑応答含め丁寧に対応し、入学後の不安を取り除けるようにしている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・特になし

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	3
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

◇留学生の入学者が増加したことで留学生のみのクラス、及び日本人と合同のクラスの運営に関して、それぞれで必要とされる指導内容や意識させるべきことも違うため、教職員側も改めて生徒指導に係る意識統一や環境整備などが急務である。

② 今後の改善方策

◇各学科や学年ごとに、担当する担任や講師陣などのチームによる継続的かつコアな情報共有と同時に、学校全体で必要な情報共有も適切に発信していけるようにする。

③ 特記事項

◇留学生には、その特性を考慮した情報伝達を検討していく。

④ 学校関係者評価委員会コメント

◇日本語学校での留学生の言葉の「分かりました」は、分かりましたじゃないケースが多いので、疑うわけではないが鵜呑みにしないで、「はい、分かりました先生」と言った後に具体的に確認を行うか、メモをさせて確認する等の指導を工夫しながら進めている。また、教員間の情報共有を密に行うように注意している。
(平井委員)

3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	2
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員的能力開発のための研修等が行われているか	3

① 課題

- ◇留学生に対する就職指導及び、就職先の開拓が現状まだ十分ではない。
- ◇1年次の夏休み段階で、就職活動と連携したインターンシップへの促しが不足している。
- ◇1年次の春休み期間の就職活動において、早期のかつ自主的な活動が十分に促進できていない。

② 今後の改善方策

- ◇卒業生を採用いただいている企業様や既存の繋がりのある企業様以外に、企業説明会などを通じて関係構築の拡大を図る。
- ◇有名企業、大手企業からの求人獲得や関係構築。また、就職実績を作る。

③ 特記事項

- ◇早期活動の促しとして、生徒の状況に合わせて個別指導を強化している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

◇日本教育クワイエットでは留学生の中途採用が増えている。(岩淵委員)

◇システム開発で現場に入る場合、ある程度日本語能力は求められる。(高橋委員)

◇インターンシップを経験した方が総じて意識が高い様に見受けられる。

インターンシップ強化を図っていくのであれば、受け入れ先、また関係企業を選定する場合は、
受託開発の基盤を持っている企業を紹介することは可能。(高橋委員)

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	3
資格(免許)取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

- ◇就職率向上への取り組み。退学率低減(特に1年生)への取り組み。卒業生サポートの充実。
- ◇業界・企業との人材育成・キャリアアップシステムへの理解を深める。
- ◇各資格の受験率、及び合格率の向上。

② 今後の改善方策

- ◇保護者連携を図り、就職活動を促進させる。
- ◇検定対策や補講等の対策を充実させる。
- ◇退学率低減へ向け、個に合わせた指導。
 - 教科担当との連携・授業見学や面談などの実施で、生徒との対話を増やす。
- ◇求人公開システムの活用促しを授業内でも実施。
 - スカウト機能など活用できていない例もあるため指導強化していく。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ◇特定技能で働くのか技人国ビザで働くのかが問われているが、技人国ビザで働くケースがほとんどである。しかし、学歴や経歴の面で受け入れ先のマッチングが難しいのが現状。また、就職を決めてくる生徒達はほぼ自力で進路を決定している。フィリピンの生徒達は英語が話せるのでTAなどで就職するケースなどもある。(平井委員)
- ◇資格受験についてはコードが読めない、かけない、のままだと合格することが難しい。また、ITパスポートなどの資格より、高度なテクニックを得ることを優先する気持ちで受験しない生徒が多かったように思う。学校として、受けた方がいい、資格を所持している方が良いと生徒に思わせることができおらず、魅力を伝えきれていないのではないかと。(岩淵委員)
- ◇資格受験の必要性を生徒へ伝えるにあたり、資格を所持している事だけではなく、資格試験にチャレンジすることができるか等、指導や促しについて対応することができる人物かを企業側は見ていることも多いと伝える様に工夫している(岸さん)
- ◇資格取得の対応として、キャリアとの結び付けをもっとイメージさせ、更に報奨制度などで企業も工夫をしている(高橋委員)

◇何の資格から受けるのか、ロードマップを整理して理解させてあげることも必要に感じる。(高橋委員)

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3
学生相談に関する体制は整備されているか	3
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	2
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

◇メンタルが弱い留学生や日本語能力に乏しい留学生へ対する適切な理解やサポート体制の整備。

② 今後の改善方策

◇外部講師や行政のサポートも活用し、外部からの情報や知識も有効活用して学校運営に役立てる。

③ 特記事項

◇姉妹校と合同のカウンセリングルームを活用し、カウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携を実施。

④ 学校関係者評価委員会コメント

◇現場でもメンタルで退職してしまう方も少なからずおり、特に近年増加傾向にある(高橋委員長)

◇実習を行う際アンケートを取り、講師と受講生の関係や問題点を早めにキャッチできるようにする
取り組みなども実施している(高橋委員)

◇同期でも働いてみてギャップを感じている者もいる(岩淵委員)

◇留学生もメンタル面で問題を抱えるケースが年々増加傾向にある。特にお金の問題や、
思い描いていた日本での学習や生活とのギャップ。国で元々そういう面を抱えていた
留学生も増えているように思う。(平井委員)

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	2
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	3

① 課題

◇学外での研修等の活動が依然として希望者が少なく、実施までに至っていない。

② 今後の改善方策

◇沖縄校に加え、大宮校も開校し生徒数の母数も増加したため、今年度も継続して海外研修の希望者を募り、実施に向け案内をしていく予定。

③ 特記事項

◇海外研修はシリコンバレーを第1候補とし、その他の国や地域も比較しながら準備、検討をしていく。

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

なし

② 今後の改善方策

なし

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第3期中期計画(2023 年度～2027 年度)の2年目にあたり、中期計画及び進捗状況はホームページ上に公開している。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

第3期中期計画については、東京未来大学及び小田原短期大学の中計改定に加え、東京みらい中学校及び支援学校仙台みらい高等学園の内容を追加し、第3期中期経営計画(第2版)として改定する予定である。

④学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

なし

② 今後の改善方策

なし

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	2

① 課題

◇積極的な地域貢献活動の実施

② 今後の改善方策

◇在校生も含めて姉妹校とも連携し、地域貢献活動に参画できるように準備を進めていく。

③ 特記事項

◇姉妹校合同のふぁみりーEXPO を開催して、地域貢献を図った

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(11)国際交流(必要に応じて)

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	3
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	4
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	3
学内で適切な体制が整備されているか	3

① 課題

◇留学生のみの日本語能力が低いクラスの授業や運営、また普段の生活指導などにおいてコミュニケーションや文化の違いもあり苦戦している場面が散見される。

② 今後の改善方策

◇特に留学生クラスにおいては、担当講師一人では目が行き届かないことも多く、できる限り運営メンバーなどで授業の巡回をしてサポートするようにしていく。

③ 特記事項

◇教員側も留学生の文化・習慣や背景などを学び、理解し互いの歩み寄りが必要。

④ 学校関係者評価委員会コメント

◇業務上のコミュニケーションでは、指示などをしっかり言葉に出して伝えている。(岩淵委員)

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

◇今後インターンシップにおいて、AIプログラミング&CGクリエイター科だけでなく、WEBクリエイター科の受入れ先確保が課題になってくると思われるので、できることは協力させていただきたい(高橋委員)

◇今後も専門学校と日本語学校の連携を深めていきたい(平井委員)